

## 2023 新年あけましておめでとうございます

皆様、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は当団体の事業にご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。おかげさまで、当団体も今年で設立5周年を迎えます。

現代はコロナ禍や、国際紛争等の要因も加わり、ますます世界の変化が激しく、未来の予測が困難な時代となりました。これからの子ども達はこれらの社会の変化に対応し、自分たちを取り巻く様々な社会課題に向き合い、解決しようとする力が必要です。国際ボランティア団体チーム「アジアの風」は単なる金銭的、物的な国際支援に留まることなく、様々な主体的な体験を通じて自己肯定感を高め、これからの時代をたくましく生き抜く力を身につけるための支援活動を心がけて参ります。これからも変わらぬご支援をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年1月1日

国際ボランティア団体チーム「アジアの風」代表 河合健太郎

### 「カンボジアプロジェクト2022」ありがとうの花をさかせよう」無事終了



コロナ禍を受け、現地への渡航が困難になりました。その代替として2021年から実施した、オンラインによる「カンボジアプロジェクト2022」。カンボジア・プノンペン「ひろしまハウス」と日本の「中部大学春日丘高等学校インターアクト部」の子ども達が「ありがとう」をテーマにオンライン交流を重ねました。その中から紡がれた言葉を使い「ありがとうの花をさかせよう」という楽曲を制作しました。また、これらの活動の集大成として2022年9月24日、名古屋市栄の「オアシス21」で開催された「とっておきの音楽祭2022」のステージで日本とカンボジアとをオンラインで結び、両国の子ども達が大勢の観客の前で楽曲を披露しました。また、「とっておきの音楽祭2022」に向け、FM番組「川名洋行のつながるミュージック」を提供、放送しました。カンボジアの子ども達や、世界で頑張っている人たちゲストとして紹介しました。

←「とっておきの音楽祭2022」  
ステージの様子  
↓FM「川名洋行のつながるMUSIC」



公式 Youtube チャンネル



## 国際ボランティア団体チーム「アジアの風」南部アフリカ支部だより

アフリカ南部に位置するナミビアという国で特別支援教育の専門家としてボランティアを続けている大久保雅弘さんからメッセージが届きました。



はじめまして大久保雅弘です。愛知県で7年間、特別支援学校の教員経験を積み、2021年9月からナミビアにやってきました。

首都ウィントフックで、特別支援教育の発展と資質の向上、障害者の社会的地位の向上に努めています。ナミビアに来て早や1年が経ち、残りのナミビア生活も半年ほどとなりました。

### ○ナミビアについて

ナミビアは、アフリカの南西部に位置し、世界最古の砂漠「ナミブ砂漠」を抱える年間の降雨量が極めて低い乾燥した国です。国内最大のエトーシャ国立公園では多種多様な野生動物を見ることができ、毎年国外から多くの観光客が訪れます。古くから複数の民族が暮らしており、国内で13種類以上の言語が話されています。そのため、お互いを尊重しながら共生する文化が根付いており、外国人の私も暖かく受け入れて頂きました。



実はナミビアは、アフリカの中でも開発途上国の定義から抜け出した国でもあります。GDP成長率は著しく首都ウィントフックでは欧州風のおしゃれな街並みが見受けられます。一方で、経済格差を表すジニ係数という指標は世界ワースト1.2位であり、国内での貧富の差が大きな課題になっています。同じ首都市内でも、居住区によってその特徴は大きく異なり、中心地では豪華な家屋に暮らす方が

いる一方で、旧黒人居住区ではトタンで仕切られた簡易な家屋で暮らす家族もいらっしゃいます。この辺りは過去に起きたアパルトヘイトの影響が残っていると考えられます。

### ○多言語・多文化共生社会

ナミビアでは初対面の人と会うと「母語はなんですか？」と相手の母語を尋ねることが一般的です。多様な民族がともに暮らすナミビアでは、相手の文化を尊重する姿勢が自然と身についているように感じます。公用語は英語なのですが、ほとんどの人が英語の他に出身地ごとの母語を話しています。小学校の授業も1年生のうちには母語による授業が行われていますが、2年生からは英語での授業が始まります。

そのため、子ども達も2言語以上話すことができるバイリンガルなのが当たり前。英語に苦手意識のある日本人からすると、複数の言語を使いこなす子ども達はとてがかっこよく見えます。

私はこの1年間、特別支援学校でボランティアをしてきました。多言語の国家というだけあってコミュニケーションに苦労した時期もありましたが、そんな時に写真カードなどの非言語コミュニケーションが非常に役に立ちました。英語が通じない子どもや保護者とも意思疎通をすることができ、特別支援教育は国境を超えて通じるものがあると感じました。それからは、障害がある子にとって分かりやすく使いやすく考え抜かれたものは、誰にとっても分かりやすく使いやすいものかもしれないと考えるようになりました。障害がある子ども達だけでなく「誰にとっても分かりやすい」を心掛けて話をするようになったことで、現地でのコミュニケーションが円滑になっていくのを感じました。

言語の他にも、民族ごとに違った生活習慣や食文化、伝統があり、子ども達や先生達にそれを教えてもらいながら、ナミビアでの暮らしを楽しんでいます。



URL:<https://wind-of-asia.com>

